



# オランダホストタウン 想いを2020年へ。

持てる力をぶつけ合い、技を磨く淑徳大学女子柔道部員とオランダ選手。2020年のオリンピックに向けて力を高める彼女たちの想いとは。

12月10日(月)、淑徳大学埼玉キャンパスで、オランダ選手と淑徳大学女子柔道部員の公開練習が行われました。

## 溢れる喜び

柔道強豪国、日本。その中でも強豪校である淑徳大学で鍛錬を積み、自身を磨き上げる淑徳大学女子柔道部員。そして、オランダの代表となり、一国の期待を背負うオランダ選手。双方が交わる武道場の空気はピリピリと張りつめ、その空間に笑顔はありません。

一緒に練習できる時間は限られている——。少しでも多く組み合い、技をかけ、かけられ、相手の強さを肌で覚えたい。その想いが声となり響き、汗となり流れ、熱気となり寒さを吹き飛ばす。笑顔はなくとも溢れる喜びを感じることが出来ます。

## 通じる心

淑徳大学の選手は誰もが英語が達者なわけではありません。しかし、柔道の練習はコミュニケーションがしっかりと取れていないと危険が伴うもの。選手た

## 間近で見る迫力

公開練習には柔道経験者や子どもたちなど多くの見学者が押し寄せました。普段あまり入る機会のない淑徳大学埼玉キャンパスの武道場。そこで行われる迫力のある練習に思わず感嘆の声が漏れ、真剣に見入る姿が見られました。

## 交流を持った人たち

選手と一緒にオランダ給食を食べた子どもたち。住民交流会に参加した人たち。公開練習を見に来た人たち。そして、オランダホストタウンである三芳町に住む人たち。三芳町を訪れたオランダ選手たちが今後オリンピック等に出場したら——。自然と応援してしまうでしょう。彼女たちは既に私たちに、関わる人々へのからだから。

迫りくる東京2020大会。その大舞台での活躍をめざす選手たち。ホストタウンに登録された三芳町。私たちも「ホスト」として積極的に交流して、日本の選手はもちろん、オランダ女子柔道選手たちを応援してみませんか。

—— オランダ特集終 ——

ちはそのようにコミュニケーションを取っているのでしょうか。

淑徳大学の野瀬英豪監督は「言葉が通じなくても、すぐに仲良くなつて、意思疎通ができていました」と話します。言葉はあくまで情報伝達手段の一つ。同じ「道」を志す者同士、心が通じ合うことがあるのかもしれない。

違う環境に生まれながらも、同じ道の頂上を目指すオランダ選手と淑徳大学女子柔道部員。彼女たちは「柔道」という言葉を操り、心を通わせながら練習に励みます。



【写真】淑徳大学埼玉キャンパスの武道場で行われた公開練習の様子。

【写真】取材を受ける淑徳大学の浅岡主将。公開練習はテレビや新聞でも紹介されました。



## 子どもたちの刺激に

オランダの選手は体格がよく、力が強いと感じました。どのように技で対抗するかが、選手が強くなるポイントだと思えます。

オランダ代表選手を見る機会は珍しいので、柔道をしている子どもたちにも練習を見てもらって、目標を持って練習に励んでもらいたいです。



三芳町柔道連盟  
副会長 長谷川 敏 さん